

農林水産大臣賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 家族経営の部

基本技術の徹底と畝間かん水で、高品質・高収量を確保！

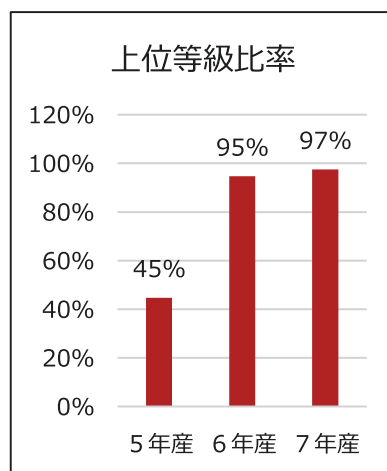
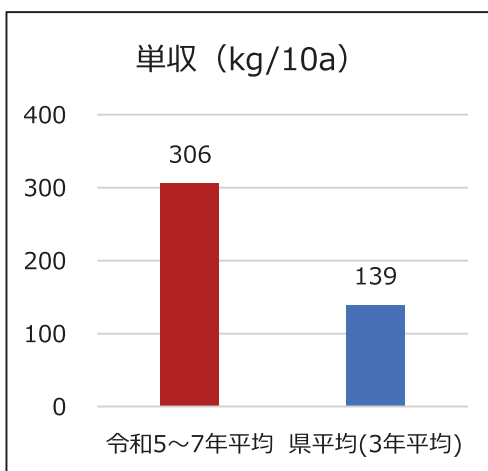
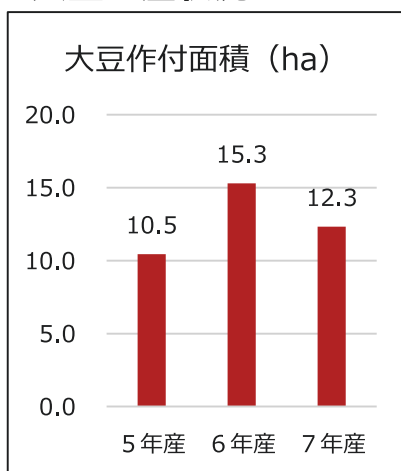
株式会社 奥山農園

山形県河北町



経営のタイプ	法人
農地面積 (令和7年度)	60.7 ha
大豆作付面積 (令和7年度)	12.3 ha
栽培品種 (◎奨励品種)	◎里のほほえみ

■大豆生産状況



■技術の特色

ブロックローテーションや圃場別の排水対策で地力維持や出芽安定を図るとともに、基肥に発酵鶏ふんを用いることで環境負荷低減と肥料費削減を実現している。生育期間中の高温乾燥時には、畝間かん水を実施し乾燥ストレスを低減させることで、着莢率を向上させ、収量・品質を高めている。

■経営の特色

水稻を中心に大豆とメロン等の複合経営で周年農業を実践している。大豆の作付面積は現状維持を基本とするものの、水稻と大豆のブロックローテーションを継続的に実施し、地力の維持に努めつつ適期・適作業を徹底することで、大豆のみならず水稻においても高収量・高品質を確保している。

■販売・消費拡大・地域貢献の特色

令和7年産大豆は大部分が上位等級格付けとなり、実需者に高品質の原料を供給することが出来ている。毎年地場加工業者との情報共有の機会を設けることで、消費者ニーズや実需者の要望に対する感度を高く維持している。



圃場に丁寧に肥培管理された様子



成熟期の様子

農林水産大臣賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 家族経営の部

基本技術と先進技術を組み合わせた多収栽培の実現

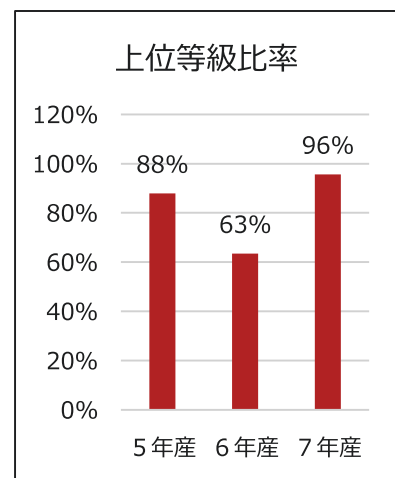
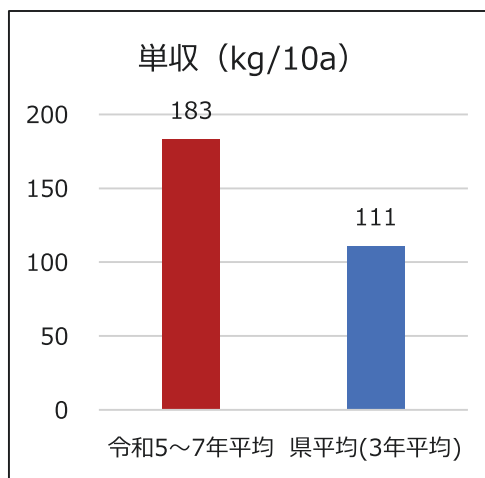
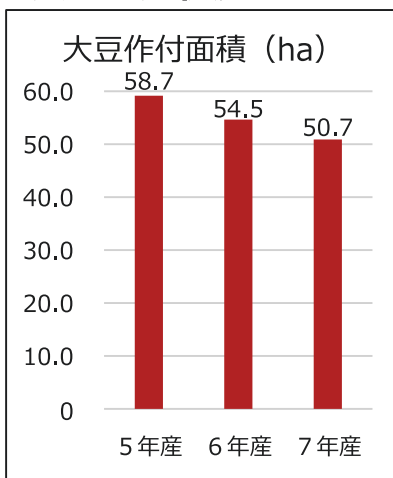
(有)山善農園

茨城県筑西市



経営のタイプ	法人
農地面積（令和7年度）	127.15 ha
大豆作付面積（令和7年度）	50.7 ha
栽培品種（◎奨励品種）	◎里のほほえみ, ◎納豆小粒 そらみずき, リュウホウ

■大豆生産状況



■技術の特色

ブロックローテーション及び徹底した排水対策により、水田であっても高い収量性を保っている。高収量・高品質栽培には適期作業が重要と考えており、適期を守るためスマート農機の活用等により作業の効率化を実践している。R5に品種登録出願された多収大豆新品種「そらみずき」を全国に先駆けて作付し、多収化を図っている。

■経営の特色

R7産は水稻62ha、大豆49ha、麦47ha、そば15haを作付し、地域を代表する大規模普通作経営体である。米価下落時にも収入を確保するなど、大豆作を水稻作のリスクヘッジとして機能させるとともに、労力分散と機械フル活用など効率的な営農に取り組んでいる。雇用条件整備により、従業員に選ばれる法人経営を実践している。

■販売・消費拡大・地域貢献の特色

JA出荷を主力とし、関係機関と連携し実需者と情報交換を行い実需者に求められる大豆の生産に取り組んでいるほか、特に多収新品種「そらみずき」についてはR8年から種子生産に取り組む予定であり、地域への普及も担っている。出荷の一部は地元豆腐店へ供給するなど地産地消にも貢献している。



大型ハイクリboomによる効率的な防除を実施



大区画化にも取り組み適期播種を実現

農林水産大臣賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 集団の部

「組織力 × 技術力」で安定した高品質生産を実現

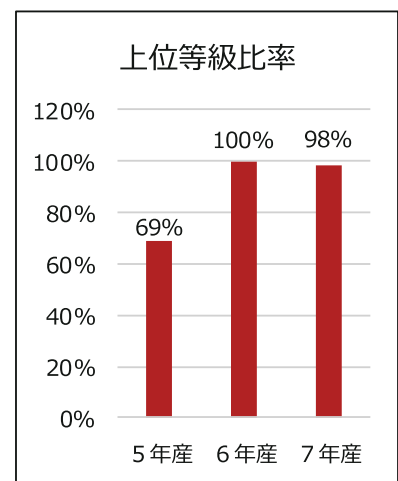
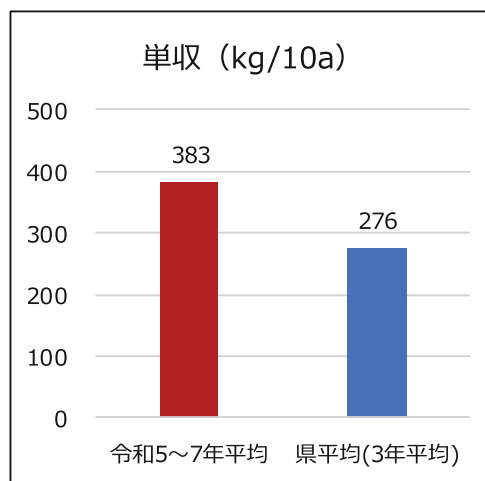
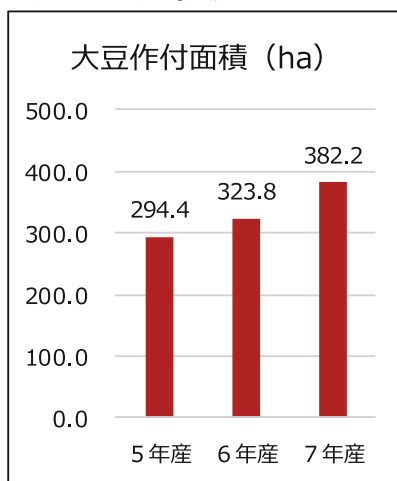
J Aこしみず 豆類対策委員会

北海道小清水町



経営のタイプ	任意団体
農地面積 (令和7年度)	9782.6 ha
大豆作付面積 (令和7年度)	382.2 ha
栽培品種 (◎奨励品種)	◎とよまどか

■大豆生産状況



■技術の特色

とよまどかへ全面移行後、作付面積や耕作者が増加していると同時に多収化も進み、令和5~7年産で最高反収を連続更新。豆類対策委員会設立や受入基準の共有で品質向上を図り、8.6プロジェクトで反収6.0俵を目標に関係機関連携を強化。葉面散布や適正密植、大型機械化など新技術導入を進めている。

■経営の特色

大豆はJ Aこしみずの振興作物として位置付けられ、4年輪作体系（小麦・馬鈴しょ・てん菜・大豆）により生産力向上と持続的経営を実現。堆肥施用で化学肥料を抑え、播種機・収穫機の共同利用で機械経費も軽減している。

■販売・消費拡大・地域貢献の特色

豆類対策委員会が主体となり講習会や視察、ユーザーとの意見交換で技術と意識向上を促進。令和8年度完成予定の新工場はバラ受け・貯留ビン対応で効率化を実現。加工品開発チームは地元大豆の経木納豆を販売し、給食提供による食育活動も進めている。



播種作業の様子



収穫作業の様子

農林水産大臣賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

小豆・いんげん・落花生等の部

品質重視と仲間づくりの豆作で安定経営を実践

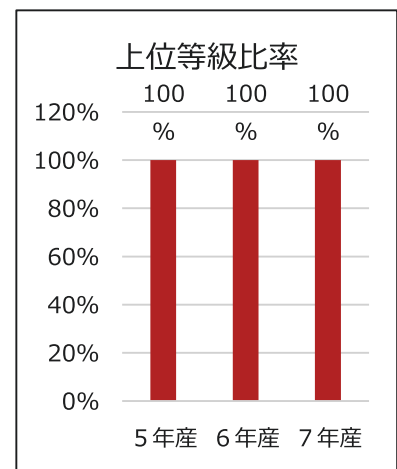
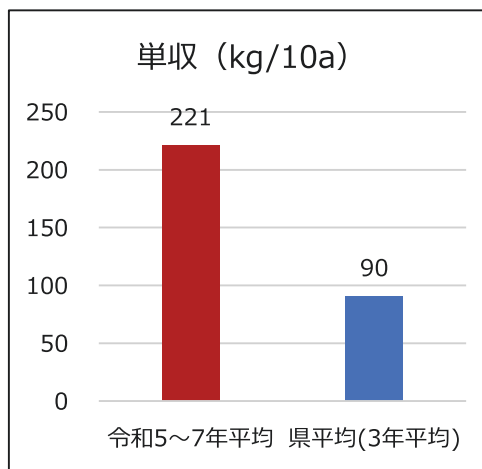
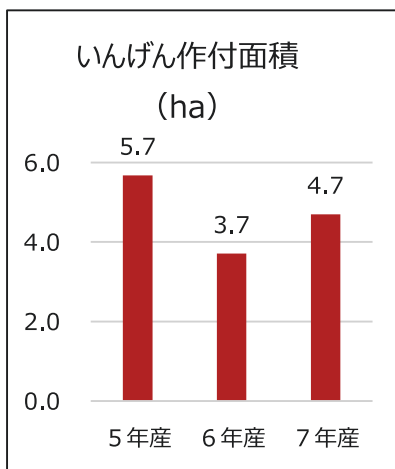
白馬 照泰

北海道大空町



経営のタイプ	個人
農地面積 (令和7年度)	25.2 ha
いんげん作付面積 (令和7年度)	4.7 ha
栽培品種 (◎奨励品種)	◎福白金時, ◎秋晴れ

■ いんげん生産状況



■ 技術の特色

酪農との複合経営の強みを生かし、自給堆肥を活用した地力増進を図るとともに、豆類、小麦、てん菜、飼料用とうもろこしによる輪作を行っている。みどりの食料システム戦略で提示されている化学肥料使用量の30%低減の達成等、新技術の導入を通じて福白金時、秋晴れの高品質安定生産を実現している。

■ 経営の特色

いんげんを導入した豆作を25年以上継続し、令和7年は耕種部門全体の農業所得に占める豆類作の農業所得が47.2%となっており、技術改善による高品質安定生産が農業経営の安定に大きく貢献している。さらに、豆類作を導入した輪作体系が定着化していることから、小麦やてん菜の生産性も地域平均を上回っている。

■ 販売・消費拡大・地域貢献の特色

北海道オホーツク管内14農協による豆類共同調製施設（オホーツクビーンズファクトリー）を通じた安定供給と、実需者からの多様なニーズに対応している。福白金時は契約先の主力商品に欠かすことのできない原料として高い評価を受けている。また、実需と産地ならびに生産者相互の橋渡し役として精力的に活動している。



均一に生育している福白金時



登熟が始まった福白金時



農林水産省 農産局長賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 家族経営の部

スマート農業技術とブロックローテーションで高い収量を実現

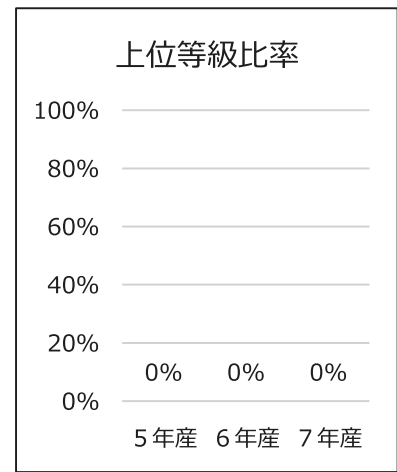
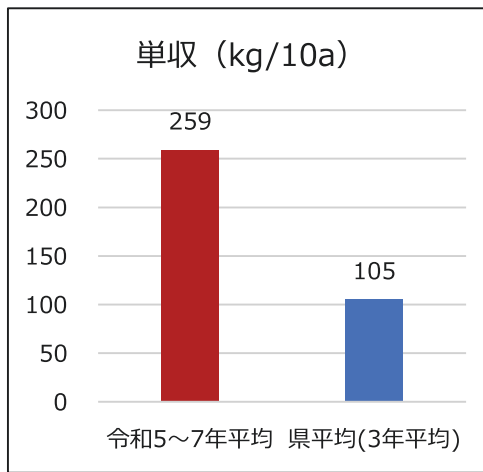
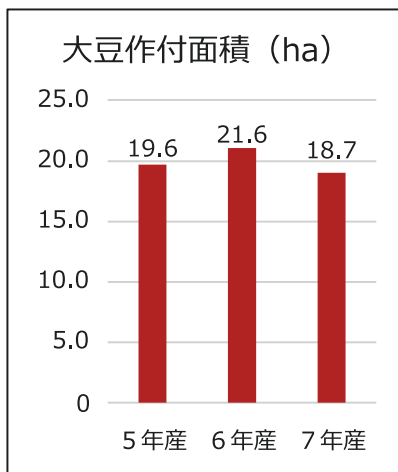
新山 武

秋田県横手市



経営のタイプ	個人
農地面積（令和7年度）	36.3 ha
大豆作付面積（令和7年度）	18.7 ha
栽培品種（◎奨励品種）	◎リュウホウ

■大豆生産状況



■技術の特色

ほ場の排水改善と均一性を高めるため、ハーフソイラを活用し、心土破碎により、高い発芽率と健全な初期生育を確保している。また、トラクターへの自動操舵導入で、播種精度が向上し、中耕培土時の大豆欠損が軽減され、収量増に結びついている。加えて、営農管理システムを活用し、ほ場管理や作業日誌の電子化を図り、迅速な営農判断に役立っている。

■経営の特色

水稻のみでは規模拡大に限界があることから、大豆を積極的に取り入れ、作業の集中や気象リスクの分散を図るとともに、必要な経費は惜しまず投入し、安定収量と品質の確保をめざしている。また、収穫後には土壌分析を行い、その結果を基にブロックローテーションなど、土地利用計画策定の判断材料にしている。

■販売・消費拡大・地域貢献の特色

品種は県の奨励品種で、JAグループが推奨する「リュウホウ」を導入して、実需者からの需要に応えている。不整形や水利の悪い農地でも、地道なほ場改良を継続し、大豆の収量性を向上させることで、耕作放棄地の解消に貢献している。また、病害虫防除や収穫作業の委託にも積極的に応じ、地域の大豆面積維持、向上に努めている。



JAで貸し出ししているハーフソイラを使用し排水性を高めている



ドローンを活用し殺虫・殺菌剤を散布
※作業性が高いため適期に作業できる

農林水産省 農産局長賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 家族経営の部

スマート化と徹底的な栽培管理で高収益化を実現！

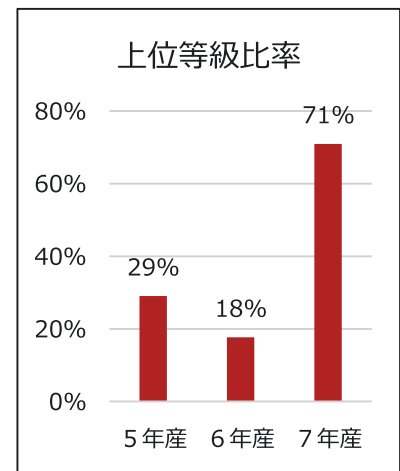
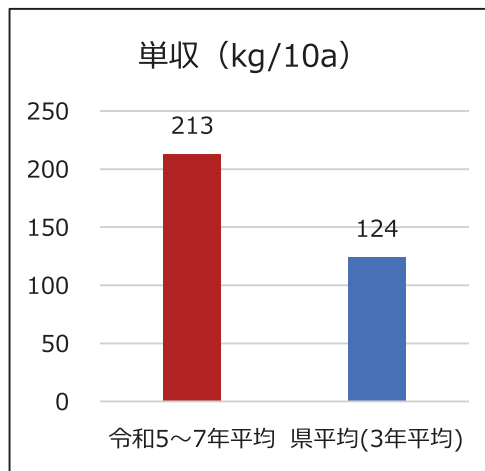
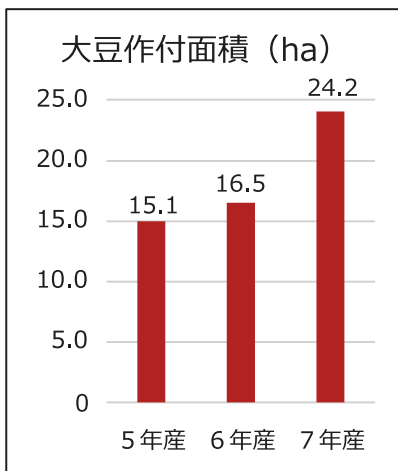
鶴田 晃康

愛知県安城市



経営のタイプ	個人
農地面積（令和7年度）	65.7 ha
大豆作付面積（令和7年度）	24.2 ha
栽培品種（◎奨励品種）	◎フクユタカA1,そらみのり

■大豆生産状況



■技術の特色

スマート農機利用による徹底した排水対策に加え、適期播種や雑草管理等の基本作業を確実に実施し、追肥による大粒比率向上などにも取り組む。さらにGNSS-RTK基地局を自宅倉庫に設置し、スマート農業技術と大型機械を効率的に活用することで急速な規模拡大にも対応し、高収量・高品質を安定して確保している。

■経営の特色

担い手の離農に伴い、経営面積と大豆作付面積を大きく拡大。主な作業従事者が本人1名の中、積極的なスマート農機の導入や機械の大型化への投資を進め、不測な面積拡大においても、急な人材確保に頼らず安定した経営基盤を維持できている。また、農地を適正に管理し、地域水田を荒廃させることなく守ろうという意識も高い。

■販売・消費拡大・地域貢献の特色

収量だけでなく大粒比率向上など実需者の求める品質に取り組む一方で、地元大豆加工業者と連携して新品種「そらみのり」の試験栽培も実施している。また、地元小学生の田植え体験など食育活動への協力に加え、生協や地元加工業者と共同で地域の消費者交流を開催し、地域農業のブランド価値向上にも寄与している。



直進アシストを活用した大豆播種の様子



フクユタカA1成熟期の圃場

農林水産省 農産局長賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 集団の部

滋賀県内の種子大豆の約2割を生産している

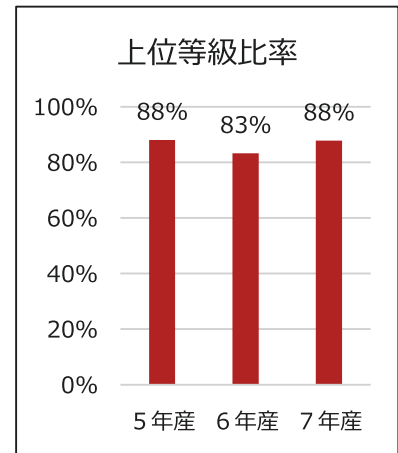
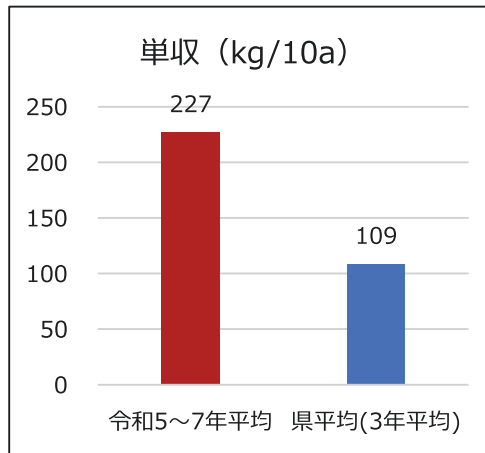
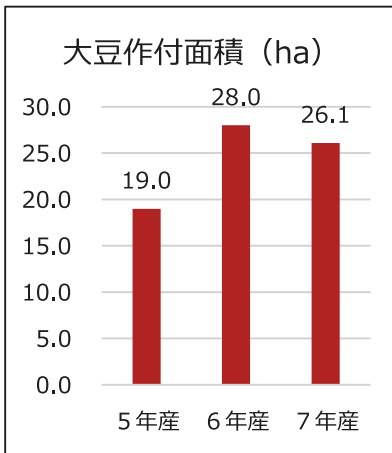
株式会社 ナカガワファーム

滋賀県近江八幡市

経営のタイプ	法人
農地面積(令和7年度)	63.1 ha
大豆作付面積(令和7年度)	26.1 ha
栽培品種(◎奨励品種)	◎オオツル, ◎ことゆたかA1号 ◎タマホマレ, ◎フクユタカ



■大豆生産状況



■技術の特色

大豆を優先した作業体系と高畝播種等により湿害を回避し、適期作業と肥培管理で多収化を実現。防除の徹底や収穫水分管理、手選別で高品質を確保。さらに自動操舵や一発耕起播種等により省力化と環境負荷低減を図り、持続的な生産体系を確立している。

■経営の特色

高齢化による離農で受託面積は法人設立時の約2倍に拡大し、大豆面積も増加。地域が種子大豆産地であるため生産の大半を種子用とし、経営の柱となっている。加茂町56haのうち21haを担い、県内種子生産の約2割を占めるなど、地域生産の維持・拡大に重要な役割を果たしている。

■販売・消費拡大・地域貢献の特色

地元豆腐業者へ安定供給(年約3t)を行い実需に対応。手選別で生じた大豆は地域へ無償配布し味噌づくりに活用されている。条件不良ほ場も積極的に受託し土壌改良で再生。共同防除・収穫組織に参画しオペレーターとして活動し、人手不足の中で地域農業を支えている。



開花時期の様子



収穫時期の様子

農林水産省 農産局長賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 集団の部

外部雇用導入により経営のV字回復を実現

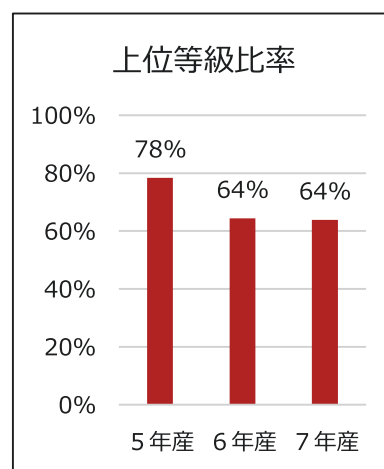
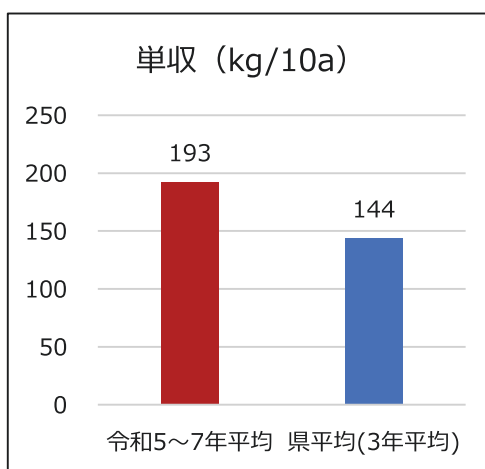
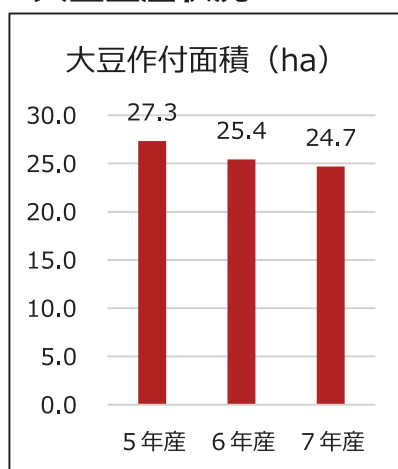
農事組合法人 今井ぎおん営農組合

福岡県行橋市



経営のタイプ	法人
農地面積 (令和7年度)	57.3 ha
大豆作付面積 (令和7年度)	24.7 ha
栽培品種 (◎奨励品種)	◎ちくしB5号

■大豆生産状況



■技術の特色

圃場データを管理し、圃場特性に合わせた栽植密度の調整や地力増進の為に堆肥散布を実施。また、大粒比率の高い新品種「ちくしB5号」の導入、精密な病害虫防除、除草剤を組み合わせた体系防除による雑草対策で高収量・高品質化を実現。さらに、大区画化とスマート農機導入、2交代制の作業体系で省力化と効率化を両立。

■経営の特色

平成20年に法人を設立。農地中間管理事業を活用した農地の団地化を図っており、大豆は20年以上、25ha程度の面積で栽培している。営農の継続性確保のため地域内オペレーターのほか、農外から40歳の若手を常時雇用職員（主任）として雇っている。農作業は主任を中心に計画的・効率的に進み、基本に忠実かつ丁寧である。

■販売・消費拡大・地域貢献の特色

地元の中学生を対象に田植えや稲刈り体験を実施することに加え、国産大豆栽培の重要性についても解説。また、耕作放棄地を発生させないよう、農地の受け皿となっている。このような地域での取組が発展し、生命保険会社や産業医大、行橋市が実施する農業を通じた健康づくりプロジェクトにも参画している。



土壌分析結果に基づく堆肥散布



汚損防止に配慮した収穫の様子

全国農業協同組合中央会 会長賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 家族経営の部

技術で地域農業をリードする経営体

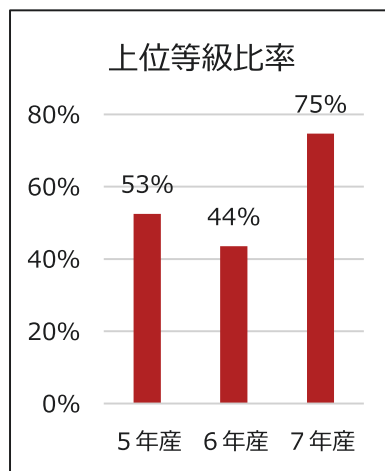
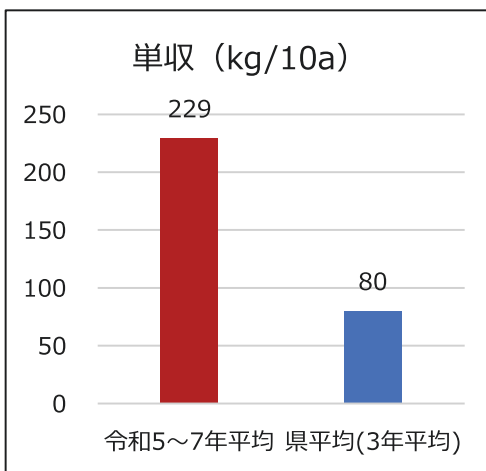
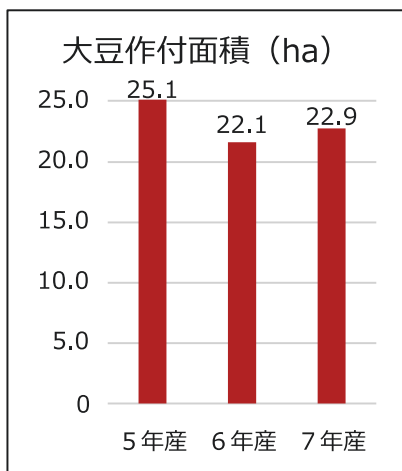
株式会社 河野農産

大分県国東市



経営のタイプ	法人
農地面積 (令和7年度)	67.5 ha
大豆作付面積 (令和7年度)	22.9 ha
栽培品種 (◎奨励品種)	◎ちくしB5号

■大豆生産状況



■技術の特色

有機質たい肥投入で地力維持を図り、コンボでの額縁明渠施工や管理機での圃場内排水溝の設置など排水対策を徹底。倒伏防止と雑草防除には中耕培土を深く行うことで対応し、病害虫防除にはこまめな圃場巡回による適期防除を実施。ドローン防除導入や各作業用の専用トラクター配置により作業効率を高め、省力化を進めている。

■経営の特色

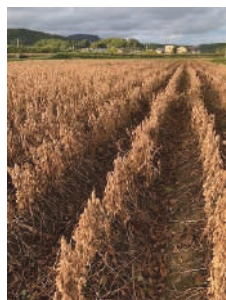
昭和52年から続く父親の経営を令和5年に法人化し昭久氏が継承。令和7年は水稻35ha、麦67ha、大豆23ha、スナップエンドウ24aを作付。県女性経営士の妻るみ氏は経理のほか圃場管理システム導入を進めるなど経営を支える。「収益は従業員に還元」をモットーに、栽培管理による安定多収と自前での乾燥～調製等のコスト削減努力により収益を確保している。

■販売・消費拡大・地域貢献の特色

県奨励の「ちくしB5号」へ全面転換し、実需が求める高品質大豆をJAへ全量出荷。中山間部の条件不利農地が多いが、畦畔の草刈等圃場周辺の環境整備をきちんと行い収量も確保しているため、地域の信頼は厚く農地集積を可能としている。また、県内外の生産者に対する視察受入等により、生産者の技術並びに生産意欲向上を牽引している。



ドローン防除



圃場間近の大豆

全国農業協同組合連合会 会長賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 家族経営の部

スマートでディテールにこだわり抜く農業

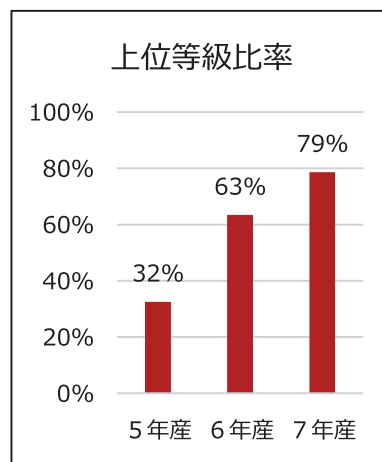
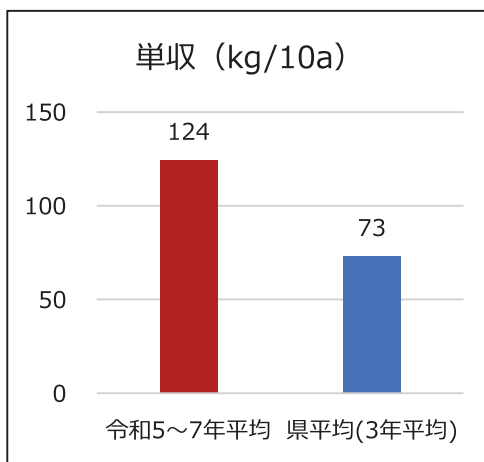
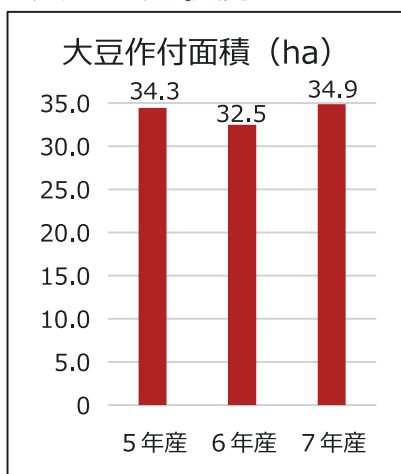
伊藤耕業 代表 伊藤 久寿

三重県菰野町



経営のタイプ	個人
農地面積 (令和7年度)	69.8 ha
大豆作付面積 (令和7年度)	34.9 ha
栽培品種 (◎奨励品種)	◎フクユタカ, ◎サチユタカA1号

■大豆生産状況



■技術の特色

KSASやGPSガイダンス、ドローン等の先進技術をいち早く導入し、スマート農業技術と大型機械によって徹底した省力化を推進している。難防除雑草には吊り下げノズルと特注機で徹底防除を目指す。明渠の深掘りで圃場排水機能を維持し、忠実な適期作業など基本技術を徹底することにより、高収量・高品質を確保している。

■経営の特色

「地主への感謝」を根幹に、徹底した畔管理で地域の厚い信頼を獲得している。SNSや全国ネットワークからトップランナーの最新技術を能動的に取り入れ、高収量を安定維持している。配偶者によるトラクター作業など家族中心の基幹労働によってコストを抑える一方、外国人材も受け入れて開かれた経営体制を確立している。

■販売・消費拡大・地域貢献の特色

地元業者やJAと連携し、納豆用小粒品種のグループ栽培や食育活動を主導。栽培課題で品種を断念した経験も知見として次期新品種「そらみのり」に生かす予定。若手と「菰野資材共同組合」を設立し、共同購入でコストを抑え、情報共有も推進。



自動操舵で播種 播種ムラ無し



高速播種機 (耕起・施肥・播種・畝立て・鎮圧)